

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径 No.168  
2022 October  
10月号

(一財)総合初等教育研究所 参与

北 俊夫先生



今月のことば

起承転結

文章の構成や物事の組み立ての順序をいいます。「起」で主題を示し、「承」で主題を受けて述べ、「転」で別の視点から発展させ、「結」でまとめます。

## 教育実習生の受け入れ

- 学生の教育実習は、教員免許状を取得する要件として実施されます。教育実習は将来の教員を育てる貴重な場です。
- 教育実習生を受け入れることによって、学校を活性化させることができます。教育実習は、学生や大学だけでなく、受入校にもメリットがあります。

## なぜ教育実習生を受け入れるのか

教員養成の大学や学部・学科の依頼で、教育実習生を受け入れている学校があります。教育委員会から求められたり、伝統的に受け入れたりがしています。学校によっては受け入れるかどうかを議論することもあり、受け入れを躊躇することもあると聞きます。

教育実習生を受け入れるのは、将来教員になることを志望している学生を指導・支援するためです。実習期間は大学や免許状の種類によって多少の違いがありますが、学生が教員免許状を取得するには、学校での教育実習が必須の要件になっています。

免許状を取得した学生の多くは都道府県等の実施する採用試験を受けて教員になっていきますから、教育実習生への指導は将来の教員を育てることであります。教育実習生を受け入れることには後進を育てるという重要な役割があります。現役の教員もかつて教育実習校のお世話になりました。

実習では、子どもたちに「教師」として接し、先生方から指導を受けながら、大学で学んだ教育の理論や授業の考え方や指導方法などを実地に経験します。その結果、教員としての資質・能力の基礎を身につけていきます。

教員になることに迷っていた学生が教育実習を経験し、子どもを教え育てることの楽しさを味わったことで、教員を強く志望するようになったという声をたびたび聞きます。教師や教職のもつ魅力、子どもたちに関わることの楽しさに気づいたのでしょう。

教員免許状を取得するだけで、教員を志望しない学生もいます。そのような学生には学校で指導の熱意も高まりません。実習を取りやめるなど大学での事前の対応と指導が求められます。

## 実習生指導の体制づくり

小学校の場合、実習生は学級に配属されます。子どもたちの登校時から下校まで、子どもたちや授業の様子を観察します。子どもの指導にも関わります。学級事務についても学びます。これらのことは、配属された学級の担任以外の教師からも指導されます。勤務は基本的に教員と同じです。

小学校では、特定の教師に負担が集中することがあります。ある学校では「教育実習の指導計画」を作成して、すべての教員がそれぞれの立場から実習生を指導する体制をとっています。この学校では校長や教頭はもとより、教務主任や生徒指導主任、特別支援教育や人権教育の担当者、特別活動や

道徳教育の主任などから講話を聞く機会が計画されていました。実習生が研究授業を実施するときには、全員で授業を参観し、助言をしていました。

この学校では、こうしたとりまとめを校長の指導のもとに教務主任が行っていました。教育実習の担当者が中心に進めている学校もあります。「教育実習の指導計画」を拝見すると、実習の内容や研究授業の日程、教員の役割分担などが明確になっています。指導計画から、教職員全員で教育実習生を指導しようという学校の体制と先生方の熱心さが伝わってきます。

教育実習生を受け入れている小学校の校長が「子どもたちは若い実習生が来ることを毎年楽しみにしています。職員室も明るくなります。学生のもっている新鮮なものの見方や考え方に接することができるからでしょうか。実習生に指導しているつもりが、ICT機器の使い方など逆に指導してもらうこともあります。実習生の受け入れは学校の活性化に役立っています」と話してくださいました。

この話から、教育実習生を受け入れることには、指導される実習生はもちろんのこと、学校にとっても大きなメリットがあるといえます。教育実習生の受け入れを、自校の課題解決のきっかけにすることもできます。

## 今月の記念日

10月16日

## 世界食料デー

1945年のこの日、国連食糧農業機関(FAO)が創設されたことを記念して、世界の食料問題を考える日として1981年に定められました。

## シマウマのしまは？

白と黒のしま模様をもつシマウマは、アフリカなどの草原にすんでいます。日本では動物園で観察できます。絵本やテレビで見ることでもあります。

シマウマを見た、ある子どもが次のような質問をしてきました。

「シマウマの白と黒のしまは、白い地肌に黒い色がついているのですか。それとも、黒い地肌に白い色がついているのですか。」

どのように説明したらよいか。おとなは答えに窮してしまいます。こうした疑問をそもそもおとなは思いつかないのではないのでしょうか。

子どもの素朴な質問に答えるラジオ番組があります。かつて、質問のなかに次のようなものがありました。

「お母さんにへその緒を見せてもらいました。へその緒はお母さんのものですか。私のものですか。」

この質問には「あなたとお母さんの2人の大切な宝物だよ」と答えるのでしょうか。

「蛇のしっぽはどこからですか。」

実際の蛇を見せることはできませんから、図鑑で説明するのでしょうか。図鑑にはしっぽの位置がわかるように描かれているのでしょうか。

おとなが答えに窮する質問や答えのない質問、考えたこともない質問をしてくる子どもたちには、どこか個性の豊かさを感じます。ユニークな疑問は新しいものを創り出すチカラにつながっていくように思います。子どもの素朴な疑問は創造のチカラです。

「なぜ」「どうして」などの疑問をもち続ける子ども、そしてそのうちひとつでも自分の力で解決していく子どもを育てていきたいものです。

## 教育の動向

### 学校施設指針の改訂

学校施設のあり方を検討してきた、文部科学省の調査協力者会議は最終報告書を取りまとめました。それによると、教室だけでなく、廊下や階段なども含めて、学校の施設全体を学びの場として捉えなおしています。

報告書では、学校が子どもたちの学びと生活の場として快適な教育空間になることを目指して、学校施設に次のような改善を求めています。

- 校舎内に子どもたちの居場所となる小さな空間やベンチを設け、室内は木材を利用すること。
- 空調設備の整備、トイレの洋式化・

乾式化、手洗い設備の非接触化を進めること。

- 学校が地域コミュニティの中心になっていることを踏まえ、学校が地域との「共創空間」になること。

また、教室に対しては、1人1台端末に対応して、ゆとりのある空間に整備することや多目的スペースを活用することを求めています。そのうえで、改善例として、多様な学習活動に柔軟に対応すること、ロッカースペースなどの配置を工夫するなど、教室空間を有効に活用することをあげています。

これまで学校の建築や施設のあり方は、学校の設置者や設計者が中心に考える傾向がありました。これからは、教職員など学校関係者も学校の施設づくりに参画することを促しています。

## 北 俊夫の「実践と研究」の足あと 36

### 食育—取り組みの契機

学校の食育の担当者を対象に、学校における食育の推進について講演したときのことで。講演のあと「社会科の先生がどうして食育について話をするのですか」と質問を受けました。

食育に関わるようになったきっかけは、次のようなことでした。平成14年ごろです。全国学校栄養士協議会から「創設された『総合的な学習の時間』について話してほしい」と依頼がありました。研修会では「総合的な学習の時間」の趣旨や取り上げる課題や学習活動について話しました。参加された学校栄養士の方々に、「これからの出番ですよ」と励ましました。

その後、文部科学省の『食に関する指導の手引き』の作成に、「第一次改訂版」を含めて2度座長として関わり

ました。栄養教諭制度の導入や食育基本法の制定もあり、各学校において食育を全教育活動をとおして推進することが重要な課題になったのです。

こうした状況下で、都道府県単位で開催された食育の研修会に講師としてうかがうようになりました。そこでは「総合的な学習の時間」のことや学校における食育推進の考え方や進め方について話をしました。栄養教諭や学校栄養士の方々と知り合う機会が増え、学校現場や共同調理場などでの取り組みの状況や課題を知ることができました。私の研究分野も広がりました。

食育に関してまとめた図書に、『食育の授業づくり』（健学社）、『食育—学校でつくる食生活の基礎・基本』（全4巻）（明治図書）、『「総合的な学習」と栄養教諭』（全国学校栄養士協議会）などがあります。

## INFORMATION

### 冬休みからの総しあげ教材

1年間の学習を  
1冊で  
まとめて復習!

※別冊つきは60円プラス



国語・算数を集中的に!  
これでだいじょうぶ

1・2年 390円  
3~6年 410円



5教科を徹底復習!  
パーフェクト〇年

1・2年 460円  
3・4年 510円  
5・6年 560円

ぶんげい  
きみの手に、みらいの夢を。

## 編集後記

168号より編集担当が交代になりました。長く続いてきたこの「教育の小径」を引継ぎ、ご購入いただいている皆様に気持ち良く読んでいただけるように頑張りますので、引き続きご愛読のほどよろしく申し上げます。(Y記)

ぶんげい  
きみの手に、みらいの夢を。

企画・編集：ぶんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2022年10月1日